

**神のみこころ#2:**キリストの中で、すべてのものをかしらにつり上げるといふ、神の大なる高貴なみこころを知り、それにあずかる 2020/6/1-7 OL全文と御言葉「朝海の食物」を使って下さい

### Summary:

**I.**「みこころの奥義を私たちに知らせてくださいました。これは、神がご自身の中で計画された彼の偉大な喜びによるもので、時代の満了時のエコノミー[経綸]へ至るためです。すなわち、キリストの中で、天にあるもの地にあるもの、すべてのものを、彼の中でかしらにつり上げようとしたのです(エペソ1:9-10)」: **A.**神が彼の願いにしたがって、ご自身の中で計画し、定めたエコノミー、あるいは経綸は、時代の満了時にキリストの中で、すべてのものをかしらにつり上げることです。 **B.**これが成し遂げられるのは、三一の神の満ちあふれる命の供給を命の要因として、召会のすべての肢体の中へと分与することを通してです。それは、彼らが死の状態から復活して、からだに結び付けられるためです。 **C.**「時代」はもろもろの時代を指しており、時代の満了時とは、すべての時代における神のすべての経綸が完了した後、新天新地が現れる時です。経綸は、分与するという行為あるいは過程であり、神がご自身を彼の選ばれた人の中へと分与することを指しています。全部で四つの時代があります。すなわち、罪(アダム)の時代、律法(モーセ)の時代、恵み(キリスト)の時代、王国(千年期)の時代です。私たちは今日、召会生活の中で、この究極の経綸の縮図を享受しています。私たちは召会生活の中で、生ける水としてのその霊を享受し、命の木としてのキリストを食べるとき、究極の経綸を待ち望みます。 **D.**エペソ1:10ですべてのものをかしらにつり上げるとは、3~9節で扱われたすべてのことの結果です。神が私たちを選び、あらかじめ定め、贖い、赦し、恵んだのは、キリストの中で、すべてのものをかしらにつり上げるといふ目的のためです。 **E.**22と23節がさらに啓示しているのは、このかしらにつり上げることが「召会に」であり、それはキリストのからだ、天使たちの反逆と人の反逆によって引き起こされた、死と暗やみの中にある宇宙的な崩壊の堆積から救い出されており、かしらとしてのキリストのすべてにあずかるということです。崩壊から救い出されることは、かしらにつり上げられることです。 **F.**すべてがキリストの中でかしらにつり上げられるとき、完全な平安と調和、崩壊から完全に救い出されることがあります。これは万物の復興から始まります。 **G.**エゼキエル37章にある、死んでいて、枯れていて、散らされている骨が見せているのは、真の一の中にあるからだ、召会、神の家を持つ唯一の道が、命の道であるということです。息は、死んだ骨の中へと入るとき、彼らにとって命となりました。そして、彼らは生きて、一の中で立ち上がり、極めて大きな軍隊となりました。

**II.**キリストの中でかしらにつり上げられるために、私たちはすべての事で、かしらであるキリストの中へと成長し込む必要があります。「すべての事」は、私たちの日常生活における、また私たちの働きにおける、大小すべての事を意味します: **A.**からだの有機的な建造はからだの成長であり、からだの成長は、すべての肢体の中で神が増し加わり、命としての神が増加することです。 **B.**成長する肢体は建造する肢体です。命において成長することは、私たちの中に神をさらに多く持つことです。私たちの問

題は、私たちが神に欠けていることです。 **C.**私たちはかしらの中へと成長し込むために、神聖な愛の要素と範囲の中で、真実を固く保たなければなりません。エペソ4:15の「真実」は、真であるものを意味します。私たちは神の永遠のエコノミー、すべてを含むキリスト、そしてキリストのからだとしての召会を固く保つ必要があります。 **D.**私たちがかしらの中へと成長し込むのは、キリストの頭首権の権威を承認することを通してです。キリストはあらゆる人、召会、そして万物のかしらです。 **E.**キリストがかしらにつり上げること、信者たちがあずかるのは、召会生活の中で進んでかしらにつり上げられることによります。すなわち、命において成長することにより、キリストの光の下で生きることによります。 **F.**私たちがかしらの中へと成長し込むのは、キリストに私たちの存在の内側の各部分の中で増し加わって、成長していただくことによります。私たちは命において成長するために、私たちの霊に注意を払わなければなりません。私たちは自分のミングリングされた霊を知らなければならず、用いなければならず、活用しなければなりません。エペソ1:17が見せているのは、私たちが知恵と啓示の霊を求めて祈って、キリストと神のエコノミーを十分に認識する必要があるということです。エペソ3:16が見せているのは、私たちが祈って内なる人の中へと増強される必要があるということです。エペソ4:23が私たちに告げているのは、私たちの思いの霊の中で新しくされるということです。エペソ6:18が私たちに告げているのは、どんな時にも霊の中で祈るということです。私たちは命において成長するために、聖なる言葉の乳と食物の養いを得なければなりません。聖なる言葉はキリストの具体化であり、キリストは神の生ける言葉です。

**III.**私たちが命においてかしらの中へと成長し込むとき、私たちの機能がかしらから出て来てからだを建造します: **A.**私たちは、キリストにすべての事でかしらになっていただくとき、またすべての事で彼の中へと成長し込むとき、彼の命の豊富をもって供給され、彼から受けたものをからだの他の肢体の中へと注入します。私たちは聖徒たちを助けて、主を享受し、主によって養われることを学ばせなければなりません。それは、彼らが成長することができるためです。 **B.**キリストの頭首権の下で、からだ全体はキリストのからだを成長させます。この成長は、その豊富な供給のあらゆる節々(キリストのからだにおけるすべての特別な賜物)を通してです。この成長は、それぞれの部分(キリストのからだのあらゆる肢体)の度量に応じた活動を通してです。 **C.**キリストの頭首権の下でキリストのからだを建造することは、愛の中で、また愛によってです。キリストのからだを建造するために、私たちが何であろうとも、また何を行なおうとも、愛が最も卓越した道です。ただ愛だけが、私たちを主との正しい関係の中に保つことができます。 **D.**命において成長することは、かしらであるキリストの中へと成長し込むことですが、キリストのからだの中で活動することは、彼から出て来る活動を持つことです。まず、私たちはかしらの中へと成長し込み、次に、かしらからであるものを持って、からだを建造します。これが、キリストの中で、すべてのものをかしらにつり上げるといふ、神の大なる高貴なみこころにあずかることです。

**Crucial Point(1):時代の満了時のエコノミーとは、すべてのものをキリストの中でかしらにつり上げることである**  
エペソ 1:9-10 みこころの奥義を私たちに知らせてくださいました。これは、神がご自身の中で計画された彼の大きい喜びによるもので、時代の満了時のエコノミー[経綸]へ至るためです。すなわち、キリストの中で、天にあるもの地にあるもの、すべてのものを、彼の中でかしらにつり上げようとされたのです。

エゼキエル 37:4-5 これらの骨に預言して言いなさい。枯れた骨よ、エホバの言葉を聞け。…見よ、私はあなたがたの中に息を入れ、あなたがたは生きる。  
7 私が預言していると、ざわめきがあり…震動があつて、骨と骨とが共に集まって来た。

10 息が彼らの中に入った。そして彼らは生き、自分の足で立ち上がって、極めて大きな軍隊となった。

**OL1:**経綸は、分与するという行為あるいは過程であり、神がご自身を彼の選ばれた人の中へと分与することを指しています。

**OL2:**全部で四つの時代があります。すなわち、罪(アダム)の時代、律法(モーセ)の時代、恵み(キリスト)の時代、王国(千年期)の時代です。時代の満了時とは、すべての時代における神のすべての経綸が完了した後、新天新地が現れる時です。

**OL3:**エペソ 1:22 と 23 がさらに啓示しているのは、このかしらにつり上げることが「召会に」であり、それはキリストのからだ、天使たちの反逆と人の反逆によって引き起こされた、死と暗やみの中にある宇宙的な崩壊の堆積から救い出されており、かしらとしてのキリストのすべてにあずかるということです。

**OL4:**息は、死んだ骨の中へと入るとき、彼らにとって命となりました。そして、彼らは生きて、一の中で立ち上がり、極めて大きな軍隊となりました。

死は崩壊をもたらし、暗やみは混乱をもたらします。サタンの目標は、神の被造物を腐敗させ、混乱を引き起こすことです。しかし主を賛美します、死が満ちあふれたところには、命もますます満ちあふれます！…神は入って来て生かし、命を分け与えられます。命があるところに、光もあります。死は荒廃させますが、命はいやします。暗やみは混乱をもたらしますが、光は正しい秩序をもたらします。

この経綸はアベルに始まり、各時代を通して増し加わってきて、最終的に時代の満了時の経綸に到達します。私たちはその経綸に近づきつつあります。これを認識するなら、私たちは喜びで我を忘れるでしょう。使徒パウロでさえ、私たちほど終極の経綸に近づいていませんでした。ハレルヤ、私たちはみな究極の経綸にあずかるでしょう！ 主の回復の中で、私たちは召会生活において、来たるべき経綸の縮図を持っています。何とすばらしいことでしょう！

私たちの多くは、かつては散らされ、宇宙的な崩壊によって引き起こされた堆積の中にいたと、証しすることができます。しかしある日、命の要因が私たちの中に入り、私たちは起き上がって結び付きました。召会生活の中に入って来た後、私たちは、ますます真つすぐに立ち、ますます結び付きつつあるという深い感覚を持ちました。これが、キリストの中でかしらにつり上げることで、

しながら、多くの時、死の力が召会の中にさえ働いて、死の要因を召会の肢体の中に注入しました。死の要因がある肢体の中へと入り込む時、彼らは毒され、死の毒素を他の人に拡散させます。再び、これらの愛する人たちは崩壊して堆積となり、かしらにつり上げられることからはるかに遠ざけられます。しかし、主を賛美します。命の要因が最終的に、再び彼らに届きます！

### **適用:在職青年・大学院生編**

会社や大学院の研究室では多くのパワハラ、セクハラ、モラハラ等の墮落したことが存在します。これは世の中が崩壊の堆積であることを示しています。人は内住する罪のゆえに様々な不義なことや不名誉なことを行っています。神の目にこれは人が罪を犯すだけでなく、人が崩壊の堆積であることを示しています。人は罪のゆえに死んでいるだけでなく、枯れたバラバラになった骨です。

例えばあなたの上司は前例主義なので、前例のない非常事態宣言下の状況に置かれると、フリーズしてしまい、ノーアイデアで何もできない状況に陥っています。正しく対応しないので、状況はどんどん悪化していきます。このような大混乱の状況においてあなたは他の社員のようにただ上司を批判するのであってはいけません。コロサイ3:22 奴隷たちよ、すべての事で、肉によるあなたがたの主人に従いなさい。人にへつらう上辺だけの仕方ではなく、単一な心で主を畏れつつ従いなさい。23 あなたがたが何をしても、人に対してではなく、主に対してするように、心から行いなさい。あなたはまず主に信頼し主に祈ってください。そしてキリストを知恵として上司を助けるために彼に進言することができます。上司の同意がなければあなたは何をしてもいけません。あなたはまず主に来て祈り、自分がかしらにつり上げられ、そして状況をつり上げるために上司に進言し上司の同意の下でアクションを起こしてください。

またコロナウイルスの安倍政権の対応やその他の案件で、ネット上多くの批判が飛び交っています。人々は感情的になり、安倍政権を批判しています。このような時、あなたは一人の信者として、安倍政権のために祈るべきです。安倍政権に間違ったことがあるかどうか粗探しするのがあなたの仕事ではありません。神に信頼し、暗闇が暴露されることを願いますが、あなたは政権がそこがあれば、彼らのために祈り、彼らを支える必要があります。それは政権がこの極めて重大な局面において正しくリーダーシップを発揮して、コロナウイルスが抑えられ、経済が迅速に復興されることをサポートすることです。あなたは政権のために祈り、彼らに知恵が与えられ、彼らが間接的にあなたを通してヘッドアップされるように祈ることができます。決して世の人たちと同じようにただ批判をして、崩壊の堆積となつてはいけません。

**祈り:**「おお主イエスよ、世の中は崩壊の堆積です。私は信者として、崩壊の堆積に戻つてはいけません。かしらであるあなたへとつり上げられて、上司のために祈ります。また安倍政権を批判するのではなく、彼らのために祈ります。彼らにコロナウイルスを抑える事と経済復興に関して知恵が与えられますように。」

**Crucial Point(2):真実を保持し、キリストの頭首権を承認し、すべての事がかしらであるキリストの中へと成長し込み、かしらにつり上げられる**

エペソ 4:15 むしろ、愛の中で真実を固く保って、私たちはすべての事で、彼すなわちかしらであるキリストの中へと成長し込むのです。

コロサイ 2:19 かしらに結び付いて…この方から、からだ全体は、節と筋によって豊かに供給され、結合され、神の増し加わりによって成長するのです。

エペソ 5:23 なぜなら、夫は妻のかしらだからです。それは、キリストが召会のかしらであって、彼ご自身がからだの救い主であるようにです。

**OL1:**キリストの中にかしらにつり上げられるために、私たちはすべての事で、かしらであるキリストの中へと成長し込む必要があります。「すべての事」は、私たちの日常生活における、また私たちの働きにおける、大小すべての事を意味します。

**OL2:**成長する肢体は建造する肢体です。命において成長することは、私たちの中に神をさらに多く持つことです。私たちの問題は、私たちが神に欠けていることです。

**OL3:**私たちがかしらの中へと成長し込むのは、キリストの頭首権の権威を承認することを通してです。

**OL4:**キリストがかしらにつり上げることに、信者たちがあずかるのは、召会生活の中で進んでかしらにつり上げられることによります。すなわち、命において成長することにより、キリストの光の下で生きることによります。

真実(神のエコノミー、すべてを含むキリスト、キリストのからだ)を固く保つのは、かしらであるキリストの中へと成長し込むためです。私たちの経験によれば、この成長は私たちの成長ではなく、私たちの内側におられるキリストの成長です。これはちょうどバプテスマのヨハネの言葉、「彼は必ず増し加わるが、私は必ず減少する」(ヨハネ 3:30)のようです。私たちがイエスを信じる前、成長していたのは私たちでした。主を信じて、彼を愛するようになると、私たちは減少し、キリストが私たちの内側で増し加わり始めます。最終的に、私たちは、「生きているのはもはや私ではありません。キリストが私の中に生きておられるのです」(ガラテヤ 2:20)と言ったパウロのようになるでしょう。

かしらであるキリストの中へと成長し込むことの意味は、キリストの頭首権の権威を承認することです。私たちは、彼を主またかしらとして承認しなければなりません。彼は私たちに対して権威を持っておられます。私たちは大小すべての事で、彼を主としなければなりません。この学課は容易ではありません。レストランに食事に行ったり、買い物に行ったりする時、私たちが彼を主とすることはめったにありません。日常生活の中で、このことの実行に欠けるので、集会に来るとき、主のために預言するのが難しいと感じても不思議ではありません。預言の秘訣は、イエスを主とすることです。日常生活で、あなたはイエスをあなたの主としなければなりません。そうしてはじめて、あなたは経験を持ち、そうしてはじめて、集会の中で語るべきものを持つのです。キリストは個人的に私たちのかしらであるだけではありません。彼はまた召会のかしらであり、万物のかしらでもあります。私たちは、

クリスチャン生活で、召会生活で、またすべての事で、彼の頭首権の権威を承認すべきです。こうすることによって、私たちは彼の中へと成長し込むでしょう。

**適用:新人及び青少年・大学生編**

若い学生や新人の皆さんは、かしらにつり上げられるために、以下の三つの事を実行してください。

(1) **愛の中で真実を固く保つ**:この真実とは、虚偽でないものです。宇宙において虚偽ではなく実際であるものは、神のエコノミー、すべてを含むキリスト、キリストのからだである召会です。

(2) **キリストの頭首権の権威を承認し、服従する**:  
あなたは若い時からキリストの頭首権の権威を承認し、それに服従することを学んでください。神の環境上のアレンジに服し、主に感謝し、主を賛美することを学んでください。例えばあなたを嫌っているクラスメートや先生が進級時に離れることを期待していましたが、彼らが同じクラスになり、担任の先生になりました。このような時、あなたはキリストの頭首権を承認し、「主よ、あなたに服従します。私がへりくだって彼らとうまくやっけていけるように学びます」と祈ってください。このようにへりくだって祈る時、痛みを伴いますが、甘い平安を経験することができます。そして信仰によって主と共に彼らとうまくやっけていくことを追い求めれば、主は必ず道を開いてくださいます。特に先生はあなたにとって代理権威でもあるので、率先して従い服従することを学んでください。そうすれば先生はあなたの変化に気づくでしょう。

(3) **大小すべての事がかしらの中へと成長し込む**:  
**小さな事**とは、例えばお母さんに買い物を頼まれた事や部屋の掃除をする事等です。これらにおいて、あなたはかしらである方、キリストの中へと成長し込んでください。あなたがこれらの小さな事に取り組む時、主の御名を呼び、喜びの霊を持って感謝しながら行ってください。決して「このような小さなことでは霊を活用する必要はない」と心の中で言うてはいけません。主はあなたが小さい事でもかしらの中に成長し込むように言っているのです。

あなたの本分である勉強、また両親を敬う(霊的な両親を敬うことも含む)事は**大きな事**と考えられます。学生としてあなたは主の中で、主と共に、主の証しのために勤勉に勉強することで主に仕えているのです。ローマ12:11 **熱心で怠けることなく、霊の中で燃え、主に仕えなさい**。またあなたが両親を敬う事も大きな事であり、あなた自身の益となります。エペソ6:2 「あなたの父と母を敬いなさい」。これは約束を伴っている最初の戒めです。3 「それはあなたが幸いになり、またあなたが地上で長生きするためである」。

**祈り**:「おお主イエスよ、大小すべての事で、主に感謝し、かしらであるキリストの中へと成長することができますように。買い物の手伝いや部屋の掃除等の小さな事でも、主の御名を呼び、霊を活用して行います。また私の本分である勉強や両親を敬うことは私にとっては大きな事です。大きな事の中でも、かしらであるキリストの中へと成長し込ませてください。それは私がかしらにつり上げられるためです。アーメン!」

**Crucial Point(3): 私たちに賜った霊は臆する霊ではなく、力強い霊である。霊を積極的に活用し、霊の中で祈り、命の中でかしらの中へと成長し、かしらからのものを持って建造のために機能する**

**I テモテ 4:8** なぜなら、体の訓練には多少の益はありますが、敬虔はすべての事柄に益があつて、現在の命の約束と、来たるべき命の約束を伴っているからです。**エペソ 4:16** この方から、からだ全体は、その豊富な供給のあらゆる節々を通して、またそれぞれの部分の度量に応じた活動を通して、結合され組み合わせられ、からだを成長させ、愛の中でそれ自身を建て上げるに至るのです。

**I コリント 8:1** 知識は人を思い上がらせませんが、愛は人を建造します。

**OL1:** 私たちは命において成長するために、私たちの霊に注意を払わなければなりません。私たちは自分のミングリングされた霊を知らなければならず、用いなければならず、活用しなければなりません。

**OL2:** エペソ 6:18 が私たちに告げているのは、どんな時にも霊の中で祈るということです。

**OL3:** 命において成長することは、かしらであるキリストの中へと成長し込むことです。キリストのからだの中で活動することは、彼から出て来る活動を持つことです。これが、キリストの中で、すべてのものをかしらにつり上げるといふ、神の大いなる高貴なみこころにあずかることです。

エペソ書の六つの章それぞれにおいて、人の霊が述べられています。私たちの人の霊は再生され、複合の、すべてを含む、究極的に完成された霊によって内住されて、この霊をミングリングされた霊とします。

使徒パウロはエペソ 1:17 で、御父が私たちに、理解するための知恵と見るための啓示の、ミングリングされた霊を与えてくださるようにと祈りました。私たちは、神のエコノミーの奥義を見るのに啓示と照らしを必要とします。私たちはまた、見ているものを神聖な知恵によって理解し、会得する必要があります。神のエコノミーは真の奥義ですが、私たちに啓示されています。

エペソ 6 章は、さらに進んだことを告げています。一方で、召会生活は賛美する生活、服従する生活ですが、同時にそれは、戦う生活でもあります。私たちが賛美し、互いに服従し合っているとき、敵はここで戦っているのです。私たちは祈りによって敵と戦わなければなりません。18 節は、私たちが祈るときはいつでも、思いの中ではなく、霊の中で祈るべきであると言います。私たちが歩こうとすれば、足を用いる必要があります。だれも鼻で歩いたりすることはできません。人が手で歩くことでさえ、ぎこちないです。足で歩くことが、正しい方法です。…私たちは霊によって、霊の中で祈らなければなりません。

結合され、組み合わせられるとは、家の骨組みと横木を連結するのに似ています。ですから、結合されるとは、骨組みのすべての部分が結合されて、一つの構造になることです。組み合わせられるとは、骨組みの間の透き間を、岩とれんがを交互に積み重ね、織り混ぜることによって、ふさいでいくことに似ています。ですから、組み合わせられるとは、その他のあらゆる

部分が骨組みと結合され、互いにしっかりと組み合わせられて、一つのからだになることです。

**適用: 奉仕者編**

**II テモテ 1:6** こういうわけで、私があなたに思い起こさせたいのは、私の按手を通して与えられているあなたの内にある神の賜物を、再び燃え立たせることです。

**7** というのは、神が私たちに賜わったのは、臆する霊ではなく、力と、愛と、冷静な思いとの霊であるからです。

新約の奉仕者であるあなたは、あなたの再生された霊を活用し、それを燃え立たせる必要があります。炭を燃やすために、最初のうち、うちわであおいで酸素を強制的に供給して炭を燃え立たせる必要があります。同様にあなたは自分の霊を活用し、霊に霊的酸素を強制的に送り込み、霊が燃え立つようにすべきです。

エペソ書ではすべての章で人の霊が述べられています。人の霊の中で知恵と啓示の霊が与えられ(1 章)、霊の中で信者が共に建造され(2 章)、再生された霊、内なる人の中へと増強され(3 章)、思いの霊の中で更新され(4 章)、霊の中で満たされ(5 章)、霊の中で祈ります(6 章)。あなたは自分のミングリングされた霊を知り、用い、活用することを学んでください。神の時代の満了時のエコノミーは、キリストの中ですべてのものをかしらにつり上げることです。このために召会が率先してかしらにつり上げられるべきです。召会が率先してかしらにつり上げられるための秘訣は、あなたの霊を活用することです。

あなたは自分に与えられた強い霊を活用し燃え立たせなければ、決して神のエコノミーの中で、「命の中で成長し、かしらにつり上げられる」にあずかることはできません。奉仕者にとって第一に重要なことは、霊を活用してキリストを人の享受のために供給することです。そして聖徒たちを助けて、彼らが神聖な分与に開き、三一の神を享受し、命の中で成長し、かしらにつり上げられるようにすべきです。新人たちとの朝毎の復興、家庭集会、小組の集会、祈り集会、主日集会、ネットあるいは訪問による福音や牧養などの奉仕において、あなたは霊を活用して祈り、霊を活用して神の言葉を語り、霊を活用して状況を把握する必要があります。

例えばあなたはコロナウイルスのニュースを聞けば聞くほど、不安になり弱められ、不信仰に陥ってしまいます。このような状態は再生された霊を用いないで、思いだけを用いてニュースを聞いている状態です。しかしニュースを聞きながら、次のように霊を活用して祈ってください:「おお主イエスよ、コロナウイルスの青白い馬は福音の白い馬がさらに早く走るためです。コロナウイルスは脇役であり、召会の福音は主役です。コロナウイルスのニュースを聞く時、霊を積極的に活用し、霊を燃やします。そうすれば私はニュースを聞けば聞くほど霊が強くなるはずで、私が墮落の傾向に打ち勝つのは私のミングリングされた霊によってであり、私がサタンに敵対し、最後までしっかりと立つことができるのも、霊の中で戦いの祈りをするによりです。私に与えられた霊は臆病の霊ではなく、力と愛と冷静な思いの霊です。ハレルヤ! 霊を活用し、命において成長し、からだの建造のために 1 タラントを活用して機能します。兄弟姉妹と結合され組み合わせられ、愛の中でからだ全体はそれ自身を立て上げるに至ります。アーメン!」